

## 令和2年度 新潟県国際理解教育研究会 9月誌上研修 Q&A集

会員の皆様からお寄せいただいた質問をもとに、Q&A集を作成しました。どうぞご覧ください。

### Q1) 普段からの危機管理法についておしえてください

レポート中に「犯罪に対する危機管理」について書かれていました。「危機管理を高める」とは、具体的にどのような行動をとっていたのでしょうか。「自分」・「家族」・「児童」の面から教えていただければ幸いです。

**A1-1)** イタリアは、スリや泥棒が多くありました。領事館から定期的にスリの特徴や長期休暇の過ごし方について連絡が来ていました。例えば、スリは、集団での行動が多いこと、一人が話しかける役で他の人が盗む役に分かれていること、子どもがいる家族は被害に会いやすい傾向があることなどです。事例によっては、スリの犯人を具体的に記載されている場合もありました（女性3人組、手にはコートをかけているなど）。泥棒に関しては、長期休暇での対応がほとんどでした。タッパレラは常に閉めて外出すること（いるように見せかけるのではなく、しっかりと閉めて入れないようにする）、ドアは確実に二重ロックにすることなどです。また、ディンプルシリンダーという鍵に変えることを勧めていました。

私は、家族でイタリアに赴任しました。1歳、3歳の子どもと妻の4人です。ベビーカーを押すお手伝いをするふりをして、リュックを空けようとする被害に合いました。幸い、私が気付いて大声を出したので大事には至りませんでした。優しい人もいる反面、このようにスリをする人が多くいます。私は、イタリア赴任中は、財布などはいつもカバンに入れて前に掛けていました。リュックなど背負うものは、子どものおむつ・飲み物などです。自家用車は持っていないので、いつも公共交通機関を使用するので、常に危機意識をもって生活していたつもりです。

<ミラノ日本人学校派遣：稲葉 謙太郎（長岡市立川崎小学校）>

**A1-2)** 校長は「自分の身は自分で守る」ということを職員や児童生徒に機会をとらえて話していました。つまり、決して一人では危険な所には行かないというのが大原則です。その上で、子供たちは登下校や放課後の外出の際には必ず保護者と一緒に行動するという校則がありました。小学生は守っていましたが、中学生は違反しているという目撃情報がありましたが、大きな被害を被ったという事件はありませんでした。

低価格の商品や偽ブランド商品が集まっているような市場では、値段交渉によって言い値で買えることがあります。交渉成立したなら購入することが原則です。交渉成立したにもかかわらず、購入しなかった日本人がトラブルに巻き込まれたという事件があったと聞きました。

<上海日本人学校浦東校派遣：竹内 暁美（シニア）>

**A1-3)** メキシコは、治安がいいとは言えない国でしたので、大使館や現地職員からの情報を共有して常に危機管理意識についてはお互いに声を掛け合っていました。

そのため、派遣職員は家族も含め、かなりの行動制限（危険レベルの高い地域への渡航不可、地下鉄や路上のレンタル自転車使用不可、メトロの利用地域制限、居住地条件等）がありました。どこの国でも同じだと思いますが「自分の身は自分で守る」が基本です。派遣職員は全員自家用車通勤でしたが、危険地域には近づかないこと、助手席など見えるところに荷物は置かないこと、iphoneは盗難被害に遭いやすいため外で使用しないなど、細かいところまで暗黙のルールがあります。何となく「危機管理意識が緩んでいるな」という時に自分たちの生活圏内での犯罪情報によって、気持ちを引き締められるということが日常でした。

誘拐等も多い国なので、子どもの単独行動はあり得ず、児童生徒にも日本とは違うことを話していました。常に大人の目が向けられていました。

<日本メキシコ学院日本コース：花岡 綾子（新潟市立岡方第一小学校）>

**A1-4)** 私の住んでいたバンドンは、比較的治安も良く、日中は近くを家族で散歩できるほどでした。しかし、インドネシア全体を見ると、日本人が関わる犯罪も多かったように感じます。以下の3つの観点で回答させていただきます。

【自分】海外生活での基本を心掛けていました。例えば、夜に一人で出歩かないことや知らない場所や情報が少ない場所にはなるべく行かないことなどです。また、現地スタッフや日本人会の方々と連絡を取り合い、安全面については最新の情報を入手できるように意識をしていました。

【家族】バンドンの生活では、家族以外にも使用人さんとの生活でもありました。初めは戸惑いもありましたが、現在振り返ってみても、良い方々に恵まれて、彼らなしでの海外生活は考えられません。もし犯罪が起こったときの対応や家族と関わり支えてもらう存在だったので、互いを尊重し合い、コミュニケーションを意識して図っていました。

【児童】幸運にも私が派遣していた3年間は、児童生徒が犯罪に巻き込まれた事例はありませんでした。年数回の避難訓練はもちろんのこと、日本国大使館の安全担当の方や民間の警備会社の方をお招きして、研修を定期的に開いていました。

<インドネシア日本国大使館付属バンドン日本人学校派遣：中村 昭宏（柏崎市立田尻小学校）>

## Q2) 2～3月あたりの任地でのコロナウイルス対策について教えてください。

**A2-1)** コロナでは、最後バタバタの帰国となりました。1週間早く帰国するようにとの命令が出て、大慌てで準備をした覚えがあります。当時、ニュースを見ると、少しずつミラノにコロナウイルスが迫っていることに怯えながら生活していました。日本人学校は、イタリア政府の指示に従って、2月にミラノ市内の学校と同時期に休校になりました。コロナ対策といっても、特別なことはしていません。私達は日本からマスクを取り寄せていたので、それを使いながら帰国までの日々を乗り越えていました。消毒は自宅も学校もしませんでした。むしろ、休校中は、学校は閉じているという前提だったので、勤務しているのがバレるとそれはそれで違反を犯しているということになるので、タッパレラを下ろして、ひっそりと勤務していました。校長も、「家でできるものは家で。」という指示でした。受け持っている子どもたちとは、3月に一度荷物の受け渡しということで、来校してもらい少し話をして終わりました。

<ミラノ日本人学校派遣：稲葉 謙太郎（長岡市立川崎小学校）>

**A2-2)** 3月中旬に帰国しましたが、帰国前日までは「国内感染者4人（まだ正式な把握がされていない状態）」だったので、日本に習って換気や手洗い・消毒の励行を行う程度でした。ただ、帰国直後から現在の状況に激変し、未だにリモートでの授業が行われています。

<日本メキシコ学院日本コース：花岡 綾子（新潟市立岡方第一小学校）>

**A2-3)** 3月中旬に帰国しましたが、帰国前日までは「国内感染者0人」でした。今考えるとあれだけ人口が多い国で本当に0人だったのか不思議です。そのため、特に対策を施していたわけではありませんでした。しかし、町のスーパー等はマスクが売り切れたり、中国から入ってくるはずの野菜がなくなり、値段が高騰したりしていました。

<インドネシア日本国大使館付属バンドン日本人学校派遣：中村 昭宏（柏崎市立田尻小学校）>

### Q 3) 赴任先における学校評価の方法について教えてください。

**A3-1)** 新潟県に勤務していた時は、PDCAによる学校評価は当然のように受け止めておりました。上海日本人学校では、PDCAという言葉は浸透していなかったものの方法はそれに近いものでした。

- ① 学校目標及び各指導目標について職員が数値評価・記述評価をおこなう。  
保護者にも各目標の項目について5段階評価をしてもらう。記述欄もあり。記名は任意。  
これを年2回おこなう。
- ② 職員の集計は教務主任がおこなう。  
保護者の集計は担任がおこなう。各学年の集計結果を学年部で共有する。
- ③ 全集計結果を職員会議で共有し、項目ごとに協議する。  
保護者にも学校のHP上で公開する。
- ④ 来年度の目標を立てる。(帰国と新赴任の関係で2月中に終える)

<上海日本人学校浦東校派遣：竹内 暁美 (シニア) >

**A3-2)** 学校評価については、当校も児童生徒アンケート、保護者アンケートをもとに学校評価を行っていたました。PDCAサイクル方式ではありませんでした。

<インドネシア日本国大使館付属バンドン日本人学校派遣：中村 昭宏 (柏崎市立田尻小学校) >

**A3-3)** DCAサイクルの評価と、保護者アンケートのみの評価の違いがよく分からないため、答えになるのか分かりませんが、ミラノ日本人学校での学校評価についてお答えします。

#### 1. 保護者アンケートの実施

保護者アンケートを実施し、保護者の要望などに対して学年部ごとに検討し、それを校務主任が集約をして保護者全体会で説明するような流れでした。

#### 2. 職員による行事や各学年の活動の見直し

赴任された先生方が多忙感を感じるが多かったり、一部の先生に負担がいつているような傾向があったりしたので、活動内容の見直しを図ったり、仕事内容を割り振りをしなおしたりするなどの話し合いを行ってきました。

<ミラノ日本人学校派遣：稲葉 謙太郎 (長岡市立川崎小学校) >

**A3-4)** 他の方と同じく、児童生徒、保護者、職員アンケートをもとにした学校評価でした。保護者と職員は年度初めの方針に照らし合わせた数値的評価と記述があり、記述については、それぞれ改善案等を検討して回答を行いました。

<日本メキシコ学院日本コース：花岡 綾子 (新潟市立岡方第一小学校) >

### Q 4) 赴任国から日本に帰国されたときに「日本」にどんな驚きがありましたか？

#### A4-1) 上海から帰国

赴任国中国上海	「日本」の驚きポイント
(街並み編) 色鮮やかな看板が多く、街路樹が至る所にあり幹の太さで街の歴史が感じられる。 家の窓から洗濯物が旗のように道路に面して干してある。道路を歩いていると、場所によってはすぐがかからないように注意。	・中国は看板も街の景観の一部になっているのに対して、日本は景観を損なわなくなっている。日本は落ち着きのある街並み

<p>(飲食編)</p> <p>おしぼりタオルを提供されて使用すると、食事代金に上乘せされる店がある。グラスにお湯を入れて提供される。黙っているとビールも常温で提供される。</p>	<p>・飲食店の衛生面やサービスは正に「おもてなし」の心が行き届いていて、日本はダントツに世界一だと感じる。</p>
<p>(公共交通編)</p> <p>公共交通網が張り巡らされていて、低料金で乗れる。反面、待ち方は一列でなく広がっていて我先にと乗る。座席確保は椅子取りゲーム状態。バスの運転の急発進は日常的。席に着く前に発進するので、車内で幾度も転んだ経験あり。</p>	<p>・日本は、ほぼ定刻通りの発車を心掛け、運転には乗客の安全第一を優先し、乗客のマナーも優れている。これもまた日本が世界一だと感じる。</p>

\*それぞれの特有の文化があるので、どちらが良いとは一概に言えませんが、「郷に入っては郷に従え」の諺のように、住んでいる国の文化を楽しみながら生活するのも海外派遣の醍醐味でもと感じています。

<上海日本人学校浦東校派遣：竹内 暁美（シニア）>

#### A4-2) イタリアから帰国

日本の驚き(日)・・・店員さんの対応が丁寧です。挨拶がとても素敵でした。

日本の驚き(月)・・・どこでも何でも買えるイメージです。コンビニのありがたさを感じました。また、薬局やホームセンターにも食べ物も置いてあるなど、どこでも何でも買えると感じました。

日本の驚き(火)・・・日本は、色々な料理が食べられるイメージです。日本には、様々な国の料理のお店がありますが、イタリアでは、ほとんどがイタリアンレストラン・ピザ屋のイメージです。もちろん他の国の料理のお店もありましたが・・・

<ミラノ日本人学校派遣：稲葉 謙太郎（長岡市立川崎小学校）>

#### A4-3) メキシコから帰国

成田空港でレストランに入った際、入り口にスーツケースを置くスペースがありましたが、荷物を自分から離れたところに置くことに変な緊張感がありました。隣の席の人がカバンを空席に無造作に置いておくことにも違和感を感じつつ、帰国したことを実感しました。

メキシコの人基本フレンドリーなので、声を掛ければ笑顔で挨拶をしてくれますが、サービスとしての対応ではないため、それぞれの仕事（接客、清掃、袋詰め等）が分業されています。どの店員もすべて担う日本のサービスは多少過剰に感じました。（でも、やはり日本は住みやすいです）

<日本メキシコ学院日本コース：花岡 綾子（新潟市立岡方第一小学校）>

A4-4) 「驚き」・・・すみません。思いつきませんでした。なぜなら、現在はインターネットを使って日本の情報も入ってきていましたし、SNSを利用して日本にいる友達や家族と連絡を密にとっていたからだと思います。恵まれた時に派遣させていただいたと感じております。驚きというよりは、「やっぱり日本って・・・」と感ずることがたくさんありました。たくさんあるので一部だけ紹介させていただきます。

- 日本は、決まった時間に目的地に着くこと・・・現在インドネシアの渋滞は本当にひどいです。
  - 日本のスーパーの野菜がとにかく綺麗・・・目利きが上手になりました！・・・etc
- 余談ですが、帰国後、東京駅で購入して食べた駅弁は、本当に美味しかったです。

<インドネシア日本国大使館付属バンドン日本人学校派遣：中村 昭宏（柏崎市立田尻小学校）>

**Q5) それぞれの先生方が、帰国して配属された学校等でどのようにその経験を還元されているのかを教えてくださいと思います。**

**Q5-1)** 正直なところ、今年度に関しては自分の経験は還元できていないと感じます。担任している学級では、その都度メキシコの文化や習慣、生活の様子など引き合いに出して話したり、画像を紹介したりしています。ハロウィンの時は、メキシコの死者の日について紹介し、パペルピカド作りを行いました。学級レベルでは容易ですが、そこから先と考えると難しさを感じています。逆に、これまで帰国された先生方が、どのような実践を行われているのかぜひお聞きしたいです。

＜日本メキシコ学院日本コース：花岡 綾子（新潟市立岡方第一小学校）＞

**Q5-2)** 私も花岡先生と同じ意見です。コロナ禍もあり、思ったように経験を伝えることができていないというのが正直な所です。しかし、海外の話をするとうちは本当に目を輝かせて話を聞いてくれます。また、私が派遣中に学校に送信していたお便りも丁寧にラミネートをかけて、掲示されていたので、児童や先生方とその話で盛り上がることもあります。少しではありますが、以下が今年に私が行った実践です。

- 英語「Unit3 Let's go to Italy.」の単元。児童の見本としてインドネシアをポスターにまとめ紹介した。
- 特別清掃の事前指導の際に、インドネシアのゴミ問題について話をした。

＜インドネシア日本国大使館付属バンドン日本人学校派遣：中村 昭宏（柏崎市立田尻小学校）＞